彦いち耕し噺（ばなし）

第3回 畑仕事に、休みはないのだ！

文／林家彦いち　撮影／佐藤秀明

軽トラいっぱいの女体大根に埋もれて、しあわせ～

蕎麦の実を蒔こうと張り切っていたら、畑を借りている農家の小林さんが、「まだまだ早いよ！」じゃ、それまでやることないねー、などと思っていたら大間違い。畑が草原になっていた!?

借りた４００坪の半分も植えていない我が畑。「今回こそ蕎麦の実を蒔こう！」と気合いを入れるが、畑の師匠・小林隆史さんに、

「まだまだ、早いよ」と言われて、がっくり。担当編集の今井田さんが、

「じゃ、畑仕事は何やりましょうか？」

「今回は特にやることなさそうなので、畑の合間の楽しい遊びとかやりませんか」と、ボク。

いろんな案の中、カメラマンの佐藤秀明さんの、「アサリを畑に撒いて、長野で潮干狩りしよう」に決定。それくらいの余裕がなきゃね、と笑いながら久しぶりの畑に向かった。

畑に行く途中、世話人の松坂忍さんの家へ寄った。先日松坂さんは、僕がやっているＮＨＫのラジオに電話出演したのだ。共演者の森口博子さんが、

「彦いちさんは、ちゃんと畑やってるんですか？」と尋ねたら、低く渋い声で

「えぇ、楽しそうにやってますよ」と答え、

「来るたびに食べたいものをアレコレ植えるって言うので困ってます～」と続けたのでスタジオ内は大爆笑。僕はイスから落ちそうになった。そんな話をしながら、

「今回やることないですよねぇ」なんて言ったら、

「何を言ってるんですかぁ、やること山の如しです、スグ行きましょう」と呆れられてしまった。

前回から、手伝いで参加してくれている森山伸也くんも一緒に畑へ。森山くんはマイ地下足袋を持参し、黙々と畑仕事に取り組む若者。まるで近未来少子化型畑仕事サイボーグだ。大事にしなければ。ただ燃料がわからない。

畑に着いて驚いた。まず雑草の元気っぷり。気味悪いくらい伸びている。まずはこの雑草連中と格闘だ。

アサリを撒いて潮干狩りしよう!?

ご覧アレこの作物！
いや雑草。作物顔した
雑草が多い。君は草？

松坂さん「アサリで潮干狩りしますか？」。
一同「いえ畑仕事を」。

手ごわい。青々としてそして堂々とした雑草が、「何かご用？」ってな顔をしてる。悪戦苦闘し、あっという間に雑草の山が出来る。息つく間もなく松坂さんが、「コレもう、抜いちゃわないとだめですよ」

大根を指さしている。確かに頭がちょこんと出ている。前回の小雪とは大きさが格段に違う。

「もう採っちゃっていいんですか？」

「そうね、今、全部収穫しちゃわないとだめだね、収穫は猿より早くっ」

「は、はい、ひぇ～」

何もやることないなんて言ったオレのバカバカ！　畑仕事に休息などないのだ。反省。

さぁ～気合を入れ、大根収穫大会が始まった。手始めにそっと1本抜いてみる。で、でか～い。

松坂さんをはじめ、今井田さんも、森山くんも、佐藤さんも「おぉ～」と声が漏れる。大きい大根が土の中から目の前にどど～んと現れると、人は「おおぉ～」という声しか出ないのだ。次々と引っこ抜かれる大根の中にはまるで真っ白な足を絡ませたような妖艶な女体大根も現れて、皆で唸(うな)る。

佐藤さんがカメラ片手に指示。

「ひこいっちゃん、あのね、そ～っと女性を扱うように、優しくぅ～そう～いいねぇ」シャッター音が響く。

女性を扱うようにそぉ～っと。抜けたっ、ずっしり。両手に花とはこのこと？

辛味大根を積む。匂いだけで唾液が出てくる。「辛味大根蕎麦」を想ふ。

山のような雑草の後は嬉しい収穫

右／穴あき虫食いキャベツ。皮を剥くと中は綺麗。虫とどっちが早く食べるか競争。左／コロンとかわいい治助芋参上。今後が楽しみ。

なんだかわからなくなり、大根を抱きかかえ頬をスリスリしながら、
「いや～大根萌え～って感じでっすね」と言ってみたが一同に共感は得られず。辛味大根も抜く。いや～こちらも丸々と太ってステキだ。
ここにアウトドア誌ではおなじみのカヌーイストの堀田貴之さんが遊びに来てくれた。
先日ご一緒させていただいた折、
「畑始めたんですよ、ごろっと横になると八ヶ岳と甲斐駒ヶ岳が見えるんです。是非昼寝しに来てください」と言ったのだ。ホントに来てくれて嬉しい。
「おおぉ～、いいところだねぇ」とビーチサンダルで登場。こちらは大根収穫中。採れた大根が山のように積まれてる。
「いい光景だねぇ」と微笑んでいたが、すぐ、
「オレも手伝うよ」
「あ、ありがとうございまっす」
ごろっと横になるつもりが、せっせと採れた大根を軽トラに運ぶ羽目に。それだけでは終わらず、その後の雑草取りにも参加。あげくの果ては皆に、
「堀田さん、どうして畑にビーサンなんかで来るんですか？」と意見される始末。
土まみれで笑いながら軽トラに積んだ大根の土を払い、ナイフで切って皆でかじる。
みずみずしくとっても美味しくジューシーな感じ。驚きだ。土の中でこんなものが出来るなんてスゴイなぁ。感心しながら次は辛味大根も一同でパクッ。

雑草のジャングルとの格闘を終えると奥から癒しの花が現れた。お芋様だ。メモ書きによると上が治助芋のはず…。

採れたて大根、とってもジューシー

トマトが棒をつたって、上へ上へと伸びていく。真っ赤なトマトは目前？

雑草に身を潜めてかくれんぼをしているわけではない。我ラ畑ニ没頭ス。

「そんな辛くないねぇ」なんてザクザクかじっていると、「か、から〜い」徐々に辛くなってくる。水がなかったので、そばにあった女体大根にかぶりつく。

その後、治助芋がどれくらい生長したか見てみようと、1本そっとそぉ〜っと抜いてみた。

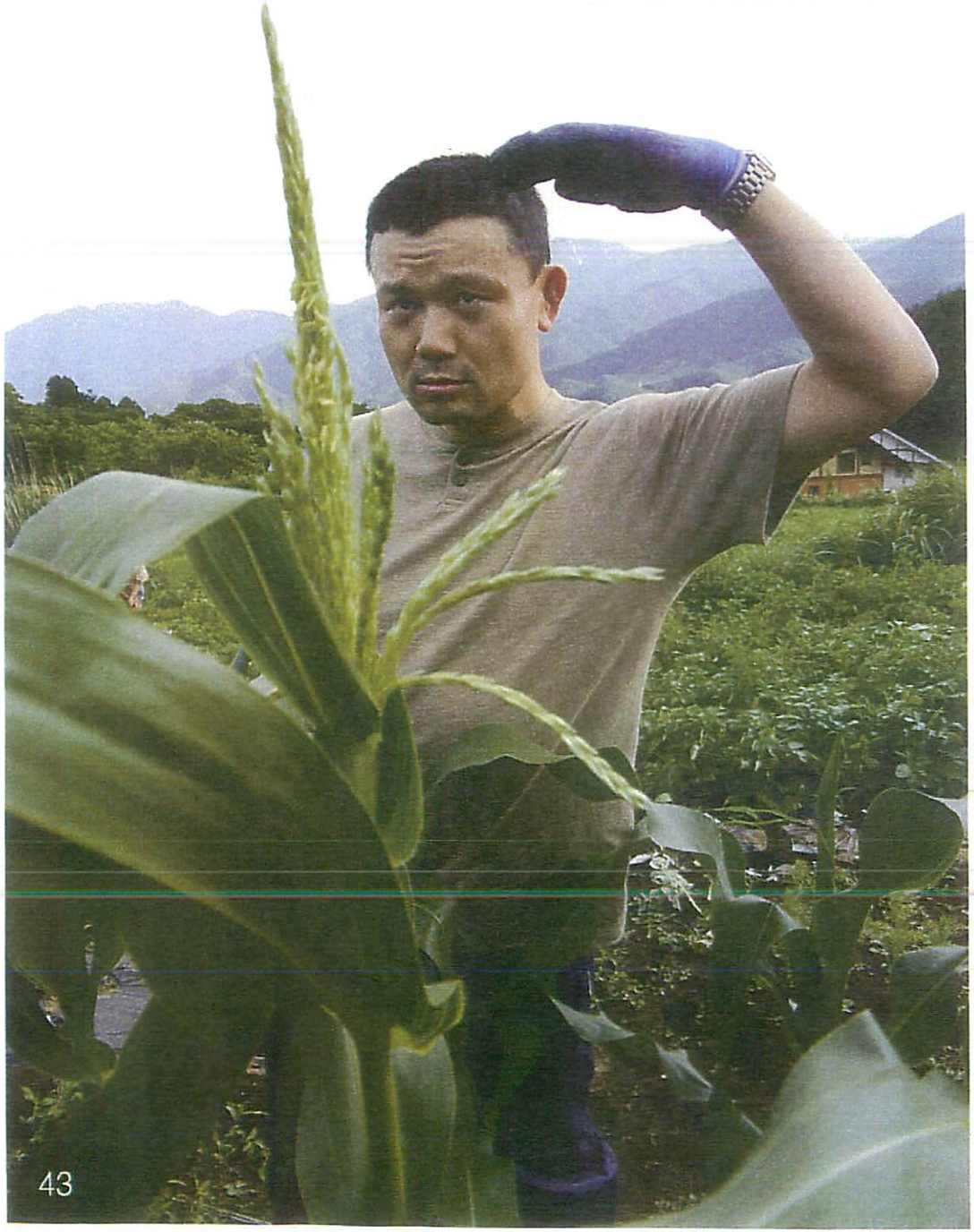
ころころころっと、小芋が付いてる！

イモだぁ。これまた嬉しくなる。

この日は、近所の人に声をかけていただき、採れた食材を使って会食をする。松坂さんは料理の腕も凄い。素材をそのまま生かした生野菜サラダや芋を揚げたものから、豚肉の上に辛味大根がのったバツグンの相性のものや豚肉と大根を煮込んだものなど、あっという間に調理していただいた。皆で、美味しい、オイシイと何回言ったかわからない。作った作物が体に入っていく感じがなんとも言えない。またこれが味わえると思うと待ち遠しい。次回は何食べよ!?　いや作ってからだ。

次は、甘ーいトウモロコシだ

右／編集・今井田さん、長袖長ズボン長靴で大根を運ぶ。左／堀田貴之さん、アロハシャツ短パン、ビーサンで大根を運ぶ。ビバ！



僕が小さいわけではない。トウモロコシが大きくなった。

03NOU34-43POP-001.jpg

林家彦いちさん

昭和44年鹿児島生まれ。平成元年、林家木久蔵門下へ入門、14年に真打昇進。『林家彦六賞』受賞（平成16年）他受賞歴多数。本年度『彩の国落語大賞』にて大賞受賞。数々のオリジナル新作落語と独自の味つけの古典落語、共に彦いち的世界観の広がる高座を全国で繰り広げている。カメラ、カヌー、格闘技が趣味で、大学時代極真空手の道場に通っていたという武闘派噺家。「久米宏のラジオなんですけど」（ＴＢＳ）レギュラー出演他、テレビ・ラジオでも幅広く活躍。近著に『いただき人生訓』ほか。原作監修の落語漫画『如春亭へようこそ』（星野めみ・著）発売中。
『彦いち噺　DVD-BOX』（2枚組、7980円）も発売中。
9月2日には公演「横浜で彦いちの噺をきく。――彦いち噺大全――第一期全二十巻　第三巻」（横浜にぎわい座 ☎045・231・2525）開催。

☒閉じる